

実験的ソフトウェア工学の奨め



チケット&計測でITプロジェクト運営の体質改善

神谷芳樹 著

ISBN: 978-4274504778
 オーム社刊
 A5版・156頁
 定価 2,400円 (税抜)
 2013年11月28日刊

筆者は、IPA/SECでの活動に加え、長年実践的ソフトウェア工学というソフトウェア開発に定量データを活用する分野に従事されてきた。本書は、これらの長年の活動の成果がベースになっている。筆者は、定量データに基づく開発管理を開発現場に導入するためにEPMというツールの提供をSECにて開始し、現在はEPM-Xとして拡張されている。本書ではEPM-Xの説明に加え、その理解促進のために、EPM-Xの構成要素であるオープンソースについての説明も図解されている。

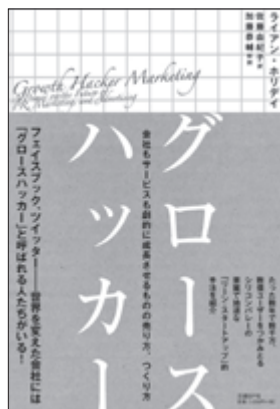
ソフトウェアの開発管理に定量データを導入するべしというのはSECがその開設以来主張してきたことである。SEC webサイトを覗き、SWEiPediaのアイコンを選択し、サーチキーワードとして「定量データ」をキーインすると39件、支援ツールとしてのEPM-Xでは2件がヒットする。本書の読者には、ぜひとも

SECにおける幅広い定量データに基づく開発管理の薦めに触れていただきたい。

本書は、実践的ソフトウェア工学に基づくので、開発現場で獲得されるデータをいかに解釈することができるかについて言及しており、現場におけるデータから何を学べるかについて示唆を与えてくれる。定量的データ管理においては、データを集めること自体が目的ではなく、また、データ収集を容易にするためにツールを活用すること自体が目的ではない。そもそも管理しようとしているソフトウェア開発プロジェクトにおいて、そのためにいかなるデータが必要で、それはいかに解釈され、結果としていかなるものを達成するかを考えることが必要である。本書を通して、データの活用に関する幅広い知見に触れていただけると考える。

(新谷 勝利)

グロースハッカーという新しいキャリア



グロースハッカー

ライアン・ホリデイ 著

加藤恭輔 解説、佐藤由紀子 訳

ISBN: 978-4822249939
 日経BP社刊
 四六判・140頁
 定価 1,200円 (税抜)
 2013年12月12日刊

現在、ネットビジネスやSNSで「グロースハック」という言葉をよくみかける。マーケティングの新たな方法論として、バズワードとなっている感も否めない。しかし、グロースハッカーという新しい職種を認識することは、これからのソフトウェア開発において重要であり、エンジニアとして目指して欲しい職種である。

これまでのマーケターは、お金をかけて見込み客を増やすことに取り組んでいた。対象となるプロダクトがパツとしないものでも売り込むことに取り組んできたと著者は言う。しかし、モノが売れない今の時代、インターネットの普及もあり、マーケティングの方法は変化している。

製品開発とマーケティングを完全に別プロセスとして行う方法はもう古く、プロダクト・マーケット・フィットという理想的な状態にするのはマーケターの仕事であるという。製品開発をエンジニア任せにせず、マー

ケターも開発に影響を与えないとならない。

本書は、グロースハッカーの技術やツールの利用に関する説明本ではない。グロースハッカーとしてのマインドセット（考え方）について、事例を多く紹介し説明している。事例は豊富であるが、私が利用したことがあったのはHotmail、Evernote、クックパッドである。私も顧客拡大策に引っかかっていたことを知り、なるほどと納得した次第である。

本書はマーケター目線で書かれている。しかし、エンジニアには本書で書かれていることを理解し、グロースハッカーを目指して欲しい。なぜならば、製品開発と改善によって価値を高めることができるのはエンジニアであり、エンジニアでなければ思いつくことのできない技術を使った顧客獲得策がたくさんあるのだから。

(渡辺 登)